ENGAGE ROTARY
CHANGE LIVES
ロータリーを実践し みんなに豊かな人生を
2013-14年度 国際ロータリー・テーマ

Weekly Report

小諸浅間ロータリークラブ

NO.1227 平成 26 年 4 月 22 日

◆例会日/週火曜日　12:30～13:30　◆例会場/小諸市鶴巻　音羽
◆事務局/〒384-0025　長野県小諸市相生町 1-2-12 エイワンビル 2 階
TEL 0267-23-8125　FAX 0267-23-2788

2013-2014 役員
◆会　　長 / 小林　秋生　◆副　会　長 / 渡辺　文夫
◆幹　　事 / 清水　良英　◆ｸﾗﾌﾞ広報･情報委員長 / 矢島　栄一

◆点鐘	小林　秋生　会長
◆SAA	橋詰　希望　委員
◆ｿﾝｸﾞ	それでこそロータリー
◆ｹﾞｽﾄ	長野県議会議員　山岸喜昭様

【会長挨拶】　小林　秋生　会長

花冷えとは、よく言ったものですね。あたりの花々は満開の盛りでありますが、この 2～3 日、大変冷え込みました。懐古園のさくらも今が盛りで、普段はガランとしている駐車場も結構入り込んで、仲々の賑いであります。

さて、私の大好きな作家で、皆さんもご存知の方が多いと思いますが、椋 鳩十と言う作家が居りました。もう 5～6 年前に亡くなられてしまいましたが、彼は童話作家と言われましたが、その作本の内容は、山の自然を相手にした動物達の話、あるいは、山から山へ移動しながら自由な生活を生き方とした山の民の話しなど、昔の信州に根差した実録の作家、言うなれば自然作家であると思います。

下伊那の喬木村の出身で、飯田の旧制中学から師範学校を出て教職となり、遠く鹿児島の地で女学校の教師をしながら作家活動を致しました。

やはり飯田地方で育った童画作家の原田泰冶さんが居られますが、同郷の自然感覚が合致した小文と絵がいくつかあります。その中の一編を抜粋した小文だけを今日はご紹介致します。

「二人だけのお花見」 椋 鳩十（むく はとじゅう）

松留（まつとめ）じいちゃんは私より十才年上だから、今年は八十八のはずだ。私が教師をしていたころ、じいちゃんは近くの学校の校長をしていた。

私のどこが気に入ったのか、実の子供のように可愛がってくれた。今でも桜が咲くころになると、電話がかかって来る。毎年のことながら、電話がかかって来ると、仕事など放ったらかしてとんでゆく。土蔵の南側にクヌギの木が、六･七本あって、小さな林をつくっていた。その林の中に一本だけ大きな桜の木があった。深々と積った落葉の上に、私達はひっくり返って、桜を眺めるのだ。

裸の林の上の春の空も美しいが、裸の林の中で、らんまんと咲く桜も、不思議なほど美しかった。

奥さんは頃合いをみはからって、ツワフギとタケノコの煮しめ、それに薩摩の国の焼酎をはこんできてくれるのだ。うららかな陽ざしの中で、ハラハラと散る桜の花を全身に浴び、南の国の酒に陶然としていると、老いたる心にも、はなやかなものが立ちのぼってくるのを感じるのであった。

さあ、今年も、ぼつぼつ松留じいちゃんから電話がくる頃だ。と椋鳩十さんの求めた美しさ、うららかさの感性こそ、人生理想の春、青春の極みであろうかと感じた次第であります。

以上、今週のご挨拶と致します。

【幹事報告】　清水　良英　幹事

1. ガールスカウト長野県第 17 団より入団式について
　日時　5 月 11 日（日）10:30～11:30
　場所　小諸市乙女湖文化センター体育館

2. 例会変更
　千曲川ＲＣ
　　4 月 23 日（水）創立記念例会
　　定刻受付あり
　　4 月 30 日（水）定款による休会
　　定刻受付あり

3. 週報
　佐久コスモスＲＣ

･当クラブ 4 月 29 日（火）、5 月 6 日（火）法定休日の為休会

本日の配布物
週報 1226 号

◆ラッキー賞

NO. 4　小林　秋生　君

◆ニコ BOX　　両川　栄　委員

山岸喜昭君	今日は、お招きいただきありがとうございました。
小林秋生君	本日のﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑは、県会議員の山岸喜昭さんが卓話に見えられました。小諸 RC の会員でもあられますので、身内のような気分でもあります。よろしくお願します。

小池平一郎君	今日は結婚記念日でお花を楽しみにしています。そばの会はごちそうさまでした。ありがとうございました。
前田博志君	おそば会、ありがとう！
中河邦忠君	ソバ会、美味のお礼に入れさせていただきます。

次週のプログラム：法定休日の為休会　／　次々週のプログラム：　法定休日の為休会

【出席報告】　黒田　説成　委員

	会員数	出席	M･U	欠席	出席率
本　日　4月 22日	24	21	事前１名	3	86.36%
前々回　4月　8日	24	22	事後１名	2	90.91%

【本日のプログラム】　「県政報告」　【講師】長野県議会議員　山岸喜昭

県政報告をさせていただきます。

お蔭様で、早くも３年が経過し、東信地区の連携、産業や経済の活性、観光振興、農業振興、工業振興など、広域的な取り組みをしながら、情報交換や、小諸の活性につながるよう幾つもの、事業や提案をさせて頂いているところでございます。

今、県議会の中で、会派では、改革･新風会派に所属しております。内部では広報委員長で、会派たよりや県政広報誌の作製をし、県内全戸折込みを担当しています。常任委員会では、今年度は、農政･林務委員会に所属しています。

特別委員会では、広報委員を務めています。お配りしました、県政レポートは、毎議会ごとで、今回で１２回目を発行することができました。

県議会議員になったのも、「やる気」「元気」「よしあき」ということで「長野県を良くしたい」「浅間山麓をもっと世に出したい」「小諸の為に力を尽くしたい」という思いからでありました。私も、全ては寛大な気持ちをもって、建設的な議論を行い、結果を出していく事が、私ども、県議に課せられた使命でると考えております。そんな中で、資料をお配りしていますが、少し活動を報告したいと思います。

先ず、小諸市内の県道関係について

●県道のこれからの取り組み

1. 諏訪白樺湖小諸線　大久保地区　大久保橋から浄化センター　　残土で拡幅
2. 141 号線　　平原交差点から御影交番まで９００ｍ　平原大橋四車線化２００ｍ　　２６年度より調査費が付く
3. 小諸上田線　　小商から栃木まで拡幅、橋の架け替えに入る
4. 小諸中込線　　耳取三岡停車場線　通学路拡幅
5. 小原信号　　拡幅のため用地交渉している道路は地権者との協議が重要。森山区の長林の拡幅は、非常に難しかったが拡幅ができました。

●小諸市と県とのつながり、パイプ役としての活動

小諸は今、重要な時を迎えている。新しい街づくりについて、県と協議の場を設けています。

平成２４年、２５年　地方事務所　所長以下課長　市役所　市長、部、課長との意見交換会

Ｈ２５、佐久地方事務所には、元気づくり支援金 11 市町村　１億円の予算が組まれています。

佐久管内　６２件　９，４００万円　　小諸市　１２件　1400 万円　街づくりが活発に取り組まれている。

［自分から見た長野県］

２月議会に置きまして、今年度当初予算が、可決されました。総額８，４９１億円であります。

皆さんは、「しあわせ信州創造プラン」御存じでしょうか？　　県が、新しく策定した総合５か年計画の愛称です。

(Ｈ２５年度から～２９年度まで)

基本目標は、県民が、みんなで心を一つにして、県づくりに取り組むための目標であります。

「確かな暮らしが営まれる美しい信州」が基本目標であります。

「しあわせ信州創造プラン」５ヵ年計画は２０年先を

見据えて県民が目指す「未来の信州」の姿への取り組みであります。

1．世界に貢献する信州
2．「豊かな」ライフスタイルを実現する信州
3．誰にでも居場所と出番がある信州
4．健康長寿世界一の信州
5．一人ひとりの力を引き出す教育県信州

キャッチフレーズには「しあわせ信州」であります。都道府県幸福度ランキングという言葉を御存じでしょうか？いろいろな機関が、様々な統計を出しています。分野別で、健康分野で1位、生活分野で2位など上位にランクされて、行ってみたい、住んでみたい、ランキングは、東京を抜いて総合1位が長野県であります。

- 健康分野で

平均寿命　男　80，88歳　女　87，18歳　　第1位

長寿は第1位、しかし、健康長寿は第13位(1位は静岡、愛知)健康寿命は、日常生活が問題なく過ごすことであり、これからは寿命を延ばすだけでなく、いかに健康に生活できるか？に関心が高まっています。

平均寿命と健康寿命との差は、不健康を意味しています。差が開くことは、健康上問題がある、医療費や介護費の増加で、家計に負担がかかります。

仕事･雇用分野で

高齢者有業率　第1位　健康で働くことが長寿の秘訣

- 教育分野では

全体で第23位　　学力は　第37位　(1位は秋田、福井)　大学進学率　第28位　京都、東京)

他に、村の数　　35村　第1位　　(合併が進まなかった為)

- 地域格差について

私も議会に送っていただき、長野県各地を訪問させていただいています。信州も大変広い県でありまして、地域格差が多く見られています。

中山間地で、山に囲まれていて道路整備も、まだまだこれから、病院も十分な施設がない、橋脚など必要の為に交通機関も遅れている、など課題が多い地域がたくさんあります。

ですから、伊那谷を通る予定の、リニア周辺整備に関しては、地域振興や環境保護など、課題が多く、南信市町村の取り組みは真剣になっています。

南信は長野県庁まで200㎞、岐阜県庁、愛知県庁、山梨県庁に行くほうが早い。第2県庁をも視野に入れています。

- 新県立大学基本構想について、

県短期大学に代わる、新たな、新県立4年生大学の設立を準備しています。2018年度の開校を目指しています。

基本構想は、少子化が進み、人口減が予想される中、

○長野県の発展の為に貢献できる人材育成
○信州の高等教育の振興のため、
○グローバル社会に対応できる人材育成、
○県内の若者が県外への高等教育機関への流出を防ぐ為、等々

いろいろな理由で、進めていますが、教育課程の編成、重複する学部･学科などの点で、中南信地区の行政機関や、私立大学や住民、地元県議等から異論も出ています。大学の設立に当たりまして、知事へ基本構想の見直しが正されています。

準備委員会で専門部会を開催していますが、私はとしては、早く、学長を決めて、教育課程、学部や私大との調整を進め、県民の理解を得る事を進めるべきと思います。

少子化が加速する中で、入学者が年々減少し、地方の小規模な私立大学は、経営が悪化して減っていくと言われています。

現在、県内の高校卒業生の県内大学進学率が16％であります。似たような大学は、共倒れになる恐れがあり、県内の国公立、私立大学を含めて、お互いに特色を打ち出して、魅力を高めることが生き残る手段であると思います。

上田市の長野大学が、50周年を迎えるに当たり、人口の減少や、県短大の4年制化への動きなど、県内の大学教育の環境が大きく変化することが見込まれる中、家計への負担を減らし、地域に密着した人材の育成を進めることと、より地元で学ぶメリットを掲げ、公立大への移行を要望しています。(学生の確保)

また、長野医療技術専門学校が、4年制の「長野保健医療大学」の2015年の開学を目指しています。4年制になる事で、理学療法士と作業療法士の資格が取得できます。　(学生の確保)

このように、少子化に伴い、信州の高等教育は、変わりつつあります。

私は、この浅間山麓地区は大変恵まれている、と思うところであります。特に小諸は、立地は日本一の活火山浅間山、日本一長い千曲川が通り、浅間山の扇状地であり、日照率が高く、多くの農作物の生産に恵まれて、緑豊かな地域だと、感謝しているところであります。また、交通網も、新幹線、しなの鉄道、小海線あり、18号線、上信越道、浅間サンライン、中部横断道の建設は進み1300m、1000mあり、北国街道はあり国会議員が四人もいる事に対しても感謝している。

人材は豊富であり、街づくりに向けて大変前向きである地域。これで、地域活性ができない訳はないと常日頃、思っております。小諸も、産業の活性、観光の活性など取り組むべき課題は、たくさんあります。

今、話題の高地トレーニング施設誘致についての進捗状況は、アベノミクスや 2020 年の東京オリンピックが決まり、まあ、景気は明るい雰囲気は出ていますが、実際には地方には、なかなか結びついてはいない。首都圏や大手企業だけが活気が出ているが地方が、活気が出なくては、景気回復ではない。これから、地方の時代といわれ、地方自治が重要になっています。地方は、行政と民間、スポーツ団体、商工産業･観光関係の連携･協力が必要であります。

昨年、行政･厚生連･民間企業と連携で、財)浅間山麓スポーツ医学研究所が立ち上がりました。

- 健康増進とスポーツ医学の推進
- 浅間山麓高地トレーニングエリア構想
- アスリートのトレーニングの科学的検証、評価
- 健康増進プログラムの活用、提供など取り組んでいきます。

東信高地トレーニング構想は、県からの提案で

小諸　―高峰高原に陸上競技トラック
東御　―湯の丸高原に室内プール
上田　―菅平高原(1400～1600m)にラグビーWカップ
　　キャンプ地誘致でグランド、室内練習場
3月には、小諸、東御、上田、嬬恋村の首長が高地トレーニング誘致の為に文部科学省など訪れて、実現に向けて協力を要望した。現在の高地トレにング施設は、岐阜県高山市御嶽山や、山形県蔵王などがあり、今までのナショナルトレセンも、施設面では先行しているし、全国各地でも当然、合宿の誘致などに取り組んでいると思うが、オリンピックが決まり、後れを取らないように、積極的に取り組む必要があると思っています。

- 高地トレーニング施設誘致にあたっての期待について

●アスリートの育成について
首都圏から近い事、病院が30分、スポーツドクターの育成、標高2000mでの高所でのトレーニング、湯の丸までの林道の活用で水泳、陸上など多くの種目のアスリートの育成ができる。天池地区の1000mのグランド整備もされ、1000m、2000mと標高差でのトレーニングがいいとされている、トップアスリートの育成に期待。

●産業･観光の活性
陸連、水連など全日本選手のキャンプ地、大学･高校の合宿誘致、2018 年韓国ピョンチャン冬季五輪、2019 年ラグビーWカップ、2020 年東京五輪･パラリンピックなど、事前合宿誘致に期待がかかる。

●トップアスリートが、来れば来るほどギャラリーがついてきます。農産物、交通機関など産業の活性、宿泊、観光地など観光の活性につながり、大きな経済効果が期待される。

- 県としての支援体制

●県教育委員会が窓口
東御市･小諸市とで、教育長に事業計画の説明
高地トレーニング構想として、東信の広域エリア
菅平高原･湯の丸高原･高峰高原　取り組み説明

●県議会として、東信での議員連盟の設立目指し
上田、平野県議　東御、石和県議　佐久、桃井県議　小諸で山岸が発起人として進めています。

- 「信州 山の日」の制定について

長野県は、県土の約 8 割を森林が占める全国有数の森林県です。この森林を水源とする豊富な水は、本県はもとより下流域の都市部へも、その恩恵をもたらしています。また、全国に 23 座ある 3,000m 峰のうち 15 座を有する日本一の山岳と、固有の生き物たちの宝庫である高原には、県内外から毎年 70 万人を超える人たちが訪れるなど、山が与えてくれる様々な「恵み」は私たちの生活になくてはならない貴重な財産です。

長野県民共通の財産であり、貴重な資源である「山」に感謝し、「山の恵み」を将来にわたり持続的に享受していくため、「山」を守り育てながら活かしていく機運の醸成の機会として、県では長野県独自の「山の日」を制定しました。「信州 山の日」の制定を契機に、県では平成 26 年度を「信州の山　新世紀元年」と題し、「山」に関する様々な取組を集中的に実施し、「山」を盛り上げる1年にしていきます。

「信州　山の日」を7月の第4日曜日の7月27日、月間を7月15日～8月14日とし、その普及啓発のために「信州　山の日」は、県民のみならず、本県の自然や山の恵みにより恩恵を受けている関東や中京圏など都市部の自治体や住民も巻き込んだ取組がおこなわれます。

県内で特殊詐欺被害が急増しています。
県警によると、平成25年の特殊詐欺被害は、10億8900万円。件数が195件に上り、平成24年を7億3400万円も上回りました。

今年はもう、1～3月に届け出だけでも45件、総額で3億2000万円。昨年を大きく上回っています。手口別の被害額は、架空の投資話などを持ち掛ける「金融商品等取引名目詐欺」（もうかります詐欺）」が最高の4億4500万円50件）。

次いで息子などを語る「オレオレ詐欺」が2億5700万円（63件）、身に覚えがないインターネットサイトの利用料金などを請求する「架空請求詐欺」が1億5400万円（47件）などとなっています。被害者は195人で、女性が138人（70．8％）、男性57人（29．2％）。ほとんどは60歳以上となっています。

今年に入ってからも昨年並みのペースで被害が相次いでおり、県警では、被害防止対策のため、電話による被害防止対策の呼びかけや、金融機関での声かけなどの、被害防止訓練と研修会の実施、啓発活動の展開などの取組を強化することにしています。

但し、警察や行政が警戒を呼びかけても、被害が増加傾向にあり、しかも検挙人数は22人と少ないことを考えれば、まずは被害を防止するための「警戒心」を県民自らが持つことが、最善の防止策であることは間違いありません。今長野県は狙われています。

皆さん。特殊詐欺被害は、人ごととせず、いざという時の対応を十分に検討しておいて頂くことを呼びかけます。

- 阿部知事との関係について

知事選挙は8月10日に行われる予定であります。当然高い支持率を得ていまして、対抗馬も人選に苦慮していることと思います。

知事とのスタンスは、知事与党と言うことで支持会派に所属しております。皆さんご存知の通り、知事も小諸の乗瀬区に住居を構えることになりました。

また、私設特別秘書も小諸の前職員である園部君、後援会の資金団体でもある、会長が7／11の鈴木さん、事務局長が小諸の平井さんでありまして、また、県教育委員6名いる中、教育長、教育委員長、他4名の中に小諸市の高木さんが委員を務めていただいております。

このような繋がりがあり、知事との距離が県内では一番近い市であると思っているところであります。

知事につきましては、市民税、区費、協力金など、しっかりとお願いしていただきたいと思います。
これから長野県では、27年の3月、北陸新幹線開通、4月から善光寺御開帳　秋には、日本最高地点を走る「小海線」の小諸、小淵沢間の全線開通80周年記念を迎え、翌年28年春には諏訪の御柱祭、また、天皇、皇后両陛下をお迎えしての、第67回全国植樹祭、この僅か、2年の間で大規模な、行事が目白押しとなっております。皆さんのご協力をいただきまして、成功に運びたいところでございます。
今後共、地域の活性の為に努力して参ります。